

しまね読進協 第47号

発行日 令和2年2月20日

発行所 島根県図書館協会 読書推進運動協議会部会（松江市内中原町 52 番地 島根県立図書館内）

令和元年度

島根県図書館協会の主な事業

◎全国優良読書グループの推薦

（公益社団法人・読書推進運動協議会より表彰）

・ブックランド古志（出雲市）

◎島根県読書推進運動功労者の表彰

【団体】

・おはなしたんぽぽ（松江市）

・おはなしパレット（出雲市）

・まほろの読みきかせエルフ（大田市）

・市木のおはなし会よむむ（邑南町）

【個人】

・小田川美由紀（雲南市）

◎読書体験記の募集

応募数 十二編

入賞 三編

◎「この本いいよ！」島根の高校生・高専生

おすすめの一冊」投稿の募集

応募団体 十三学校

応募数 七十二点

◎機関誌等の発行・配布

・「しまね読進協」第四十七号

浜田市立中央図書館の

読書活動推進

浜田市立中央図書館

昨年度、浜田市立中央図書館はこれまでの子どもの読書活動の実践が認められ文部科学大臣表彰を受けました。特に、五十年近く続いている子ども読書会や、図書館を使った調べる学習コンクールの取組が評価されました。

子ども読書会は四地区で、小学三年生から六年生が集団読書用の本を読んで、感想や意見を交換し合います。一人読みでは味わえない読書会の醍醐味を楽しんでいきます。今年度の全地区合同の読書会では、図書でパラリンピックを調べ、東京パラリンピック種目「ボッチャ」を体験しました。写真はその時の様子です。



「車椅子体験」と「ボッチャ体験」

決力や情報処理能力の向上の一翼を担っていると思います。

他に、おはなし会やストーリーテリング、電子紙芝居などは定期的な開催です。多くのボランティアに支えられており、感謝の気持ちを忘れず継続していきたいです。

こうした活動に加え、この一、二年の新しい取組として、野外子ども朗読祭やぬいぐるみのおとまり会、中高生の本のおすすめ展示を始めました。五月の薫風の中、ウッドデッキで紙芝居、エブロンシアター、朗読などをボランティアや職員が行いました。ぬいぐるみのおとまり会は、お迎え時に記念アルバムを作製してプレゼントします。とても好評です。中高生はポップにして本の紹介をしてくれますが、フレッシュな感性に毎回驚かされます。

また、今回、島根県立図書館の「幼児・児童読書普及事業」の指定を受けることができました。しまね子どもの読書等推進の会浜田支部の研修会や図書館職員研修で講話を拝聴し、集団での読み聞かせの意義や責任に立ち戻る機会を得ました。小学校や幼稚園のPTA研修では、子どもの将来にもつながっている親子読書の大切さを保護者とともに伺いました。講師の遠藤先生は話の引き出しをたくさんお持ちで、対象者や要望に応じて的確な助言をしてくださいます。来年度も本事業を活用し、保護者や支援者など子どもを取り巻く大人に親子読書や読み聞かせを勧め、読書習慣形成の支援ができればと思います。

読書体験記 入賞作品

「この本買って」

城市 香代子（松江市）



『恐竜クイズブック 小学館の図鑑NEO+POCKET』
富田幸光 監修・指導
小学館

子ども達は進学で家を出ていき、私の子育ては一段落した。思えば後悔ばかりが思い起こされ、もう一度最初から子育てをやり直せないものかと思わずにはいられない。そんな「後悔」の中の一つに、子どもへの本の与え方がある。よく「子どもが求める本を与えましょう」などと言われるが、なるほどと理解しながらも若い母親だった私は、特に購入する本に関してはハッキリと選り好みをした。図書館もよく利用したが、いざ「この本買ってママ！」と言われると、「えー、こんな本ダメだよ」と却下したものだ。絵本を気軽に買えるほど我が家には金銭的余裕はなかった。

今でも忘れられない、長女が小学一年の頃だったろうか。書店で恐竜のアニメチックな絵柄の絵本をさがされた時、私はその絵が気に入らなかった。つまらないと思った。買うのなら、もっと「高尚」な絵本でないと嫌だったのだ。

あれから月日は流れ、長女は高校生になった。いつの間にか爬虫類の類いの生き物が好きになっていた長女は、イモリだかヤモリだかのフィギュアを買い求めたり、留学先や旅行先の海外でも「ジュラシックワールド」の恐竜映画を見に行ったり、極めつけに大学受験目前のギリギリした十一月に、知り合いの大学教授とそのゼミ生たちと一緒に川ヘイモリを捕りに行った。ちびイモリを捕まえて帰り、名前を付けて飼い始めた。一日一日と迫る受験本番の不安な空気の中、イモリだけが呑気な顔をしていた。慌ただしい受験の日々が終わり、春に運良く大学が決まった。ああ済んだ、やっと終わった、と安堵と喜びの中、親子で入学の下準備のため、飛行機で大学のある地へ飛んだ。乗り継ぎの空港のロビーで時間を潰していると、小さな書店が目に入った。書店というよりブースといった狭いスペースに、魅力的に本が並べてあった。私は次々に欲しい本が見つかり、あれもこれもと本を手にとっていると「ママこの本買って」と長女が小さな本を私の鼻先に突き出した。それは『恐竜クイズブック』で対象年齢五歳から、と帯にあった。おふさぎの気持ちもあったのだろうが、本当に欲しいと思っている様だった。私は呆れた笑顔で買ってやったが、実はその時、あの小学一年の時に買ってやらなかった恐竜絵本のことを突然思い出した。あんなに欲しがったのに……日頃わがままを言わない子があんなに欲しがったのに……。私は何かに打ちのめされたような気持ちになり、この時初めて子どもとの興味の芽を潰した日のことを悔やんだ。そんな親の心境など知らず、長女はロビーのソファで機嫌良くその本を読んでいた。

私はタイムマシンが欲しいと本気で思う。それには二つの理由がある。一つは株投資売買のタイミングのため。もう一つは我が子達にもっとも幸せな時間を持たせてやるためだ。

晴読・雨読

齋藤 直子（吉賀町）



『ノルウェイの森』 村上春樹著 講談社
『1Q84』 村上春樹著 新潮社
『天翔る』 村山由佳著 講談社
『れんげ荘』 群ようこ著 角川春樹事務所
『読書と人生』 三木清著 講談社
『なつかしい時間』 長田弘著 岩波書店
『自分の中に毒を持て』 岡本太郎著 青春出版社

私には薬の副作用で、活字が全く頭に入らず、本を読めない時期があった。再び読んでみたいと思うきっかけになった本は、村上春樹の『ノルウェイの森』だった。読むペースはゆっくりで、たとえば『1Q84』では、九月の章は九月に、十月の章は十月に読んだ。氏の作品は話の筋だけでなく、細かい描写にもはっとさせられた。「十月に入り、あたりの空気は冷やかさを増していく。温かい夜が数日続き、それから驚くほど冷やかな夜がやってきた。」これを読んだのは、まさに急に寒くなった十月の夜。思わず書きとめた文章である。

以来、書き写しながら読むというのが習慣になった。抜き書きしている時間は、頭がすっきりし、心が落ち着く至福の時間である。

次第に興味は、仕事関係や自己啓発の本に移っていった。そしてある日気がついたのは、小説が読めなくなっていることだった。じつくりとひとつの話を読み通すことができない。そんな時、隣の人が村山由佳

『天翔る』を貸してくれた。読み始めると、おもしろい。とまらない。時間はかかったが、読み終えることができた。

このようにして読書への道ができていった。四月、吉賀町に転居する前、友人が「吉賀町には図書館があるし、県立図書館の本も取り寄せてくれるみたい。」と教えてくれた。俄然、引っ越しが楽しみになる。

引っ越しの片づけがあらかたすんだ四月十七日、図書館デビューをした。静かで雰囲気の良い図書館だ。リクエストすれば、他の図書館から取り寄せてくださる。新刊として購入してくださった本もある。二週間ごとに出かけていくのが生活のリズムになってきた。

こちらに来て、群ようこの「れんげ荘シリーズ」三冊を読むことができた。なんだか急に、自分が読書家になった気がした。

九月になって、岡本太郎の『自分の中に毒を持て』が目にとまった。十年くらい前、題に魅かれて読んだことがある。懐かしくて手にとったが、初めて読むような気がした。「本は自分自身との対話だ。思想的な本、小説でも生き方を見きわめるような本を読みながら、運命全体を考えてみるんだ。はじめは固くって読みにくいかもしれないが、すぐ慣れてくる」という記述があった。ちょっとむずかしそうな本も読んでみようという気になり、夫の蔵書の中から三木清の『読書と人生』を選んだ。

「自分で写本して読んだ昔の人には緩やかに読むという善い習慣があった」という所を読み、長田弘の『なつかしい時間』を思い出した。古い本は「過ぎた時代のほかに深く振れたぶんだけ、未来に深く振れてゆく。」図書館の本には、返却日が押されている。それを見ると、他の読者たちの存在を感じることができてうれしくなる。これからも、日々の習慣として、ゆるやかに読書が続けていきたい。

私も私のままで生きていこう

三 浦 麗 愛 (浜田水産高校)



『私は私のままで
生きることにした』
キム・スヒョン著 吉川南訳
ワニブックス

私にはちょっと気になっていた本がありました。それは大好きな韓国アイドルが読んでいた『私は私のままで生きることにした』です。読んでみようと思ったけれど、その分厚さにすぐには手が出せませんでした。けれど夏休みなら時間がかかっても大丈夫だと思って、読んでみることにしました。すると短編小説がたくさん集められているように、一〜三ページ毎にメッセージがたくさん散りばめられていたので、とても読みやすかったです。そして、内容も私自身のこと書かれているような気になるもので、飽きずに楽しく読むことができました。

著者のキム・スヒョンさんはイラストレーター兼エッセイストとして韓国で大人気の人です。しかし、現在のようになるまで順調に物事が進んだわけではなく、悩める時期がありました。それは、大学四年の時の大企業の就職試験に落ちた時です。もともとキムさんは「いずれは文章を書く仕事をしたい。」と思っていました。しかし、落ちたことをきっかけに、すぐにその仕事を指さず大企業を志望したのは何故か、とキムさん自身が改めて考えたそうです。そして、友だ

ちがみな大企業に行きたがっていたから、そこに価値があると思い込んでいたことに気づいたのです。それまで自分で考えて行動していると思っていたのに、実は周囲が決めたルートを忠実に受け入れているということ、他人に認められることで自分の価値を証明するという価値観にしばられていること。そのことに気づいたキムさんは、この経験を活かして誰かの期待に応えるためではなく、自分のために、自分らしく生きようと決め、この本を通して私に呼びかけてくれました。私自身を振り返ると、友だちに嫌われないように話を合わせるがあります。また、自分がしたいファッションを「おかしい」「似合っていない」「などと言われるかもと思うと自信がなくなっていて、以前に似合っていると言われた服を着てしまいます。いつでもどこでも周囲の目が気になって、言いたいことを我慢するので、自分らしく出来ていないと思うことがあります。けれどこの本で「今のままのあなたでいいんだよ。」と言われているようで、とても勇気づけられました。キムさんは「人はそれぞれ傷や不完全さを抱えている。」「誰の人生もそれほど完璧じゃない。」と言います。私は生き生きとしている人を見ると「この人悩みがなさそうだな。人間関係で困ったことがないんだろうな。」とこれまで感じていました。けれどこの本でそんな考えを変えることができました。

まず私は、自分のやりたいことを見つけようと思います。そして目標を決めて、達成するために頑張りたいです。頑張ることができれば自分に自信がもてるようになるはずです。そうして周囲の目を気にしすぎることはやめて自分らしさを少しずつ出し、家族や友だち、他人に迷惑がかからない範囲で、私は私らしく生きることしようと思いました。

令和元年度

読書推進運動功労者の表彰

公益社団法人読書推進運動協議会から、「ブックランド古志」が全国優良読書グループとして表彰されました。

◆ブックランド古志（出雲市）

代表者 藤原 廣子

平成三年に「ブックランド古志」は立ち上がりました。活動方針は一貫して「仲間と本に出会う楽しみを」で、毎月第一日曜日の午前に、小学一年生～六年生の子どもたちに、読書の楽しみや喜びを伝える活動をしています。

主な活動内容は、参加者全員が同じ本を読んで感想を話し合う「テーマ図書」の読書会や、お父さんたちに交代で読みかきせをしてもらう「読みメン」活動などです。また、高学年の子どもがリーダーとなり、主体的に年間の計画を立てて、七夕会や絵本作り、一泊研修などさまざまな関連行事も開催しています。

島根県図書館協会読書推進運動協議会部会では、読書推進運動のために尽くし、功績が顕著な団体及び個人を毎年表彰しています。今年は四団体と個人一名を表彰しました。

「団体」

◆おはなしたんぼぼ（松江市）

代表者 川津 愛子

平成十九年より松江市立中央図書館での「ストーリーテリングのおはなし会」をはじめから、今年度には一三〇回を数え、現在も継続して行っています。また、市内の幼稚園、小学校にも出向き、おはなしを届ける「おはなし出前」事業にも積極的に協力しています。特に幼稚園にあったお話のレパトリーを数多く持ち、幼稚園へ出かけ続けることで園児との心のつ

ながりも深まっています。子どもたちのより良い成長を願って、よいお話が届けられるよう自主的に勉強会を開催するなど自己研鑽等も続けている団体です。

◆おはなしパレット（出雲市）

代表者 芦田 志保

平成二十二年九月の発足以来、ひかわ図書館・おはなしの部屋を活動拠点に、毎月第二土曜日のおはなし会（ストーリーテリング）を継続して開催してきました。平成三十一年四月には百回記念お話を開催。子どもから大人まで幅広い層の利用者に、お話や本の楽しさを伝え続けており、今後の活躍も期待されているところです。

◆まほうの読みかきせエルフ（大田市）

代表者 梅田 明江

平成二十三年、小学校の統合に伴い、読み聞かせボランティアの活動が困難になった状況を改善すべく、温泉津公民館と協力して発足しました。幅広い年齢層の会員が和気藹々と活動しています。温泉津小学校のPTA総会で読み聞かせの体験募集を行うなどして会員の確保にも努めておられます。小学校での活動は、四月と三月は全体交流会として詩の朗読やお芝居などを行い、他の月には各クラスに担当を割り当てて読み聞かせを行っています。また温泉津図書館のおはなし会にもボランティアとして参加しており、地域に欠かせない存在となっています。

◆市木のおはなし会よむよむ（邑南町）

代表者 能美 由美子

平成十三年の発足時に市木地区にある小学校への朝の読み語りから始まり、保育園へ月二回の読み語りへと活動を広げてきました。公民館まつりに絵本コーナーの設置、講談社のおはなしキャラバン等を積極的に活用し、本に触れる機会を子どもたちに提供。また、自治会、地域グループとのコラボにより、防災教室「市木カルタ」を題材にした紙芝居「二作品を作成。様々な機会をとらえ、地域に密着した活動を続けておられます。

「個人」

◆小田川 美由紀（雲南市）

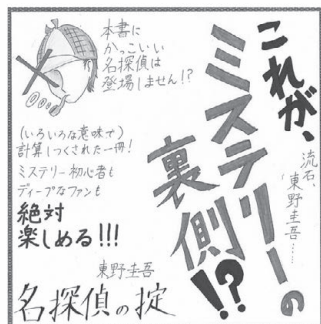
平成十六年二月にストーリーテリングの会「おはなしまてばこ」設立をはじめ、複数の読書に関する会の設立及び運営に携わり、長年にわたり自ら学びながら、広く読書活動の普及に努めてこられました。子どもから大人まで、幅広い年代を対象に行われるさまざまな企画や定期的な活動は顕著であり、地域での読書活動の振興に大きく寄与されています。

「この本いいよ！」

島根の高校生・高専生おすすめの1冊

今年も県内の高校生、高専生から七十二点のおすすめの本の投稿がありました。その一部を紹介いたします。※一部編集して掲載しています。

『名探偵の掟』 東野圭吾



（3年 えむう）

『廃校先生』 浜口倫太郎

何故だか心を動かされ、初めて読んだ時でも懐かしい感情が湧き上がるお話です。

（3年 M.T）

編集後記

昨年十一月に松江市にて、「子どもとともに読書のよろこびを分かち合おう」を主題に全国公共図書館研究会児童・青少年部門が開催され、読書や読み聞かせが子どもたちの豊かな育ちにつながることを再認識しました。読書推進運動功労者に表彰された方々のように、私たち自身が楽しみながら輪を広げ、子どもの読書を支えていこうと、気持ちを新たにしました。

（編集員一同）